

第5回 ~ 言語活動の充実に向けて ~

「書く活動」を取り入れた「学び合い」の工夫とは？

今回は、「書く活動」を取り入れながら、学び合いを通して児童生徒一人一人の主体的な学びを展開するための工夫について、実践例をもとに考えてみたいと思います。

ここで、今回の実践例（中学校歴史的分野）と新学習指導要領との関わりについて確認しておきます。

中学校学習指導要領解説社会編によると歴史的分野における改訂の要点の1つとして次のように書かれています。（詳細はP11）

ア 「我が国歴史の大きな流れ」を理解する学習の一層の重視

中教審答申が示す基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得の重視という趣旨を踏まえて、「我が国歴史の大きな流れ」を理解するための学習を一層重視した。

つまり、「各時代の特色」は、「我が国歴史の大きな流れ」を理解するために学習する内容であるということを位置付けたものである。



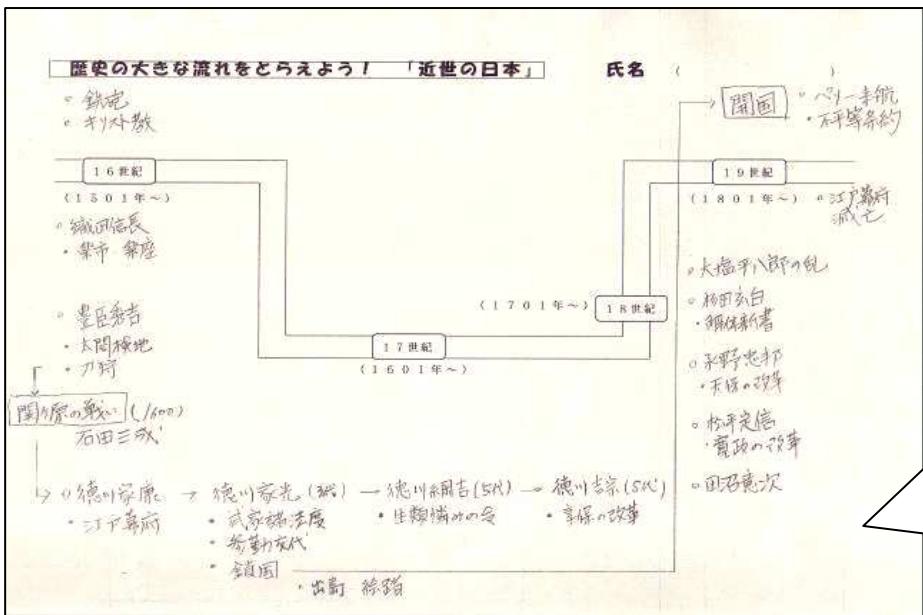
○ステップ1：ワークシートを活用する。

歴史の大きな流れをとらえよう！ 「近世の日本」		氏名
16世紀 (1501年～)		19世紀 (1801年～)
		18世紀 (1701年～)
17世紀 (1601年～)		

- 歴史の流れを示す線は様々な形が考えられるが、今回は初めてということもあり、形を示しながらも生徒の自由な発想をいかそうして、このような形にした。
- 斜めの線や曲線を使うなど、生徒の発想に任せることも考えられる。

- 「近世」の学習のまとめの時間として位置付ける。
- 歴史の大きな流れ（安土桃山時代～江戸時代末期）をとらえるためのワークシートを作成する。
- 「個→集団→個」のサイクルをいかして学習を進める。

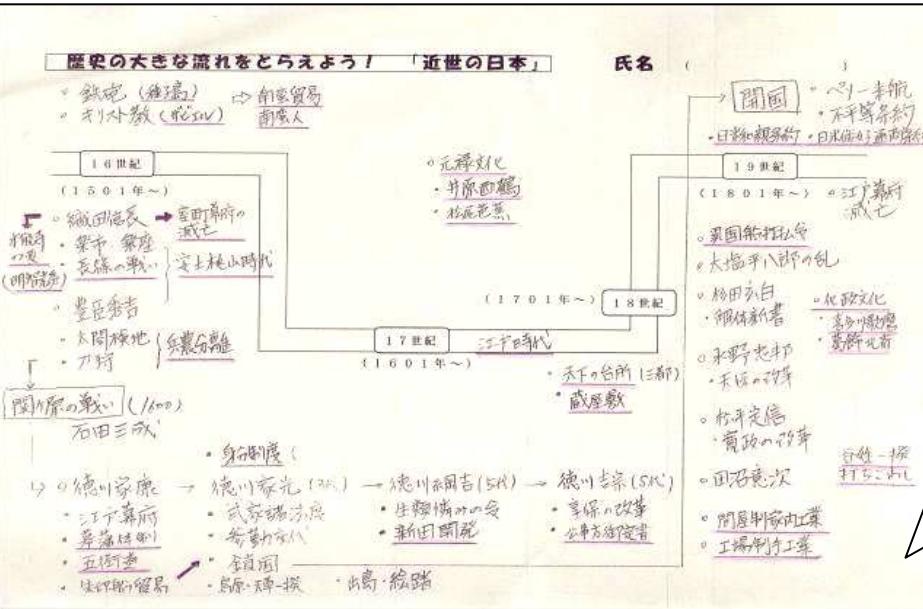
○ステップ2：「個」でシートに記入する。



- 基本的には、教科書や資料集を見ないで記入させた。
- なかなか書けない生徒については、教科書や資料集の具体的なページを示して参考にさせた。

- 最初は、既習事項をもとに自分（個）で歴史的事象を記入していく。
- 後からグループで話し合いをしながら書き加えることを伝えておく。
- 個人の学習活動であるが、教師は観察による個別支援を充実させる。
- 歴史の流れを意識して、記入場所を検討することを指示する。

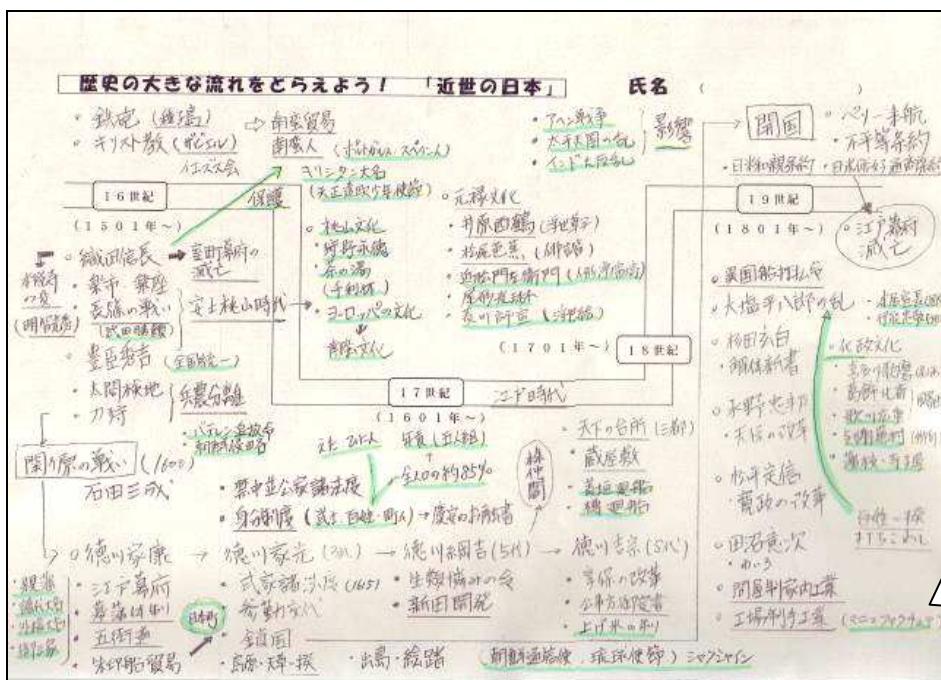
○ステップ3：小集団の学び合いで、シートに書き加える。



- 4人の小グループ編成とした。
- それぞれのワークシートを写す作業でなく、発表や説明などの言語活動が展開できるようアドバイスした。
- 新たに加えた内容は赤で下線をつけてある。

- グループ（ペア）でそれぞれ記入した歴史的事象について確認する。
- 一人一人が自分の書いた歴史的事象について説明しながら発表する。
- 他の生徒が記入してなかった歴史的事象については、その内容を簡単に説明しながら、書き加えさせる。

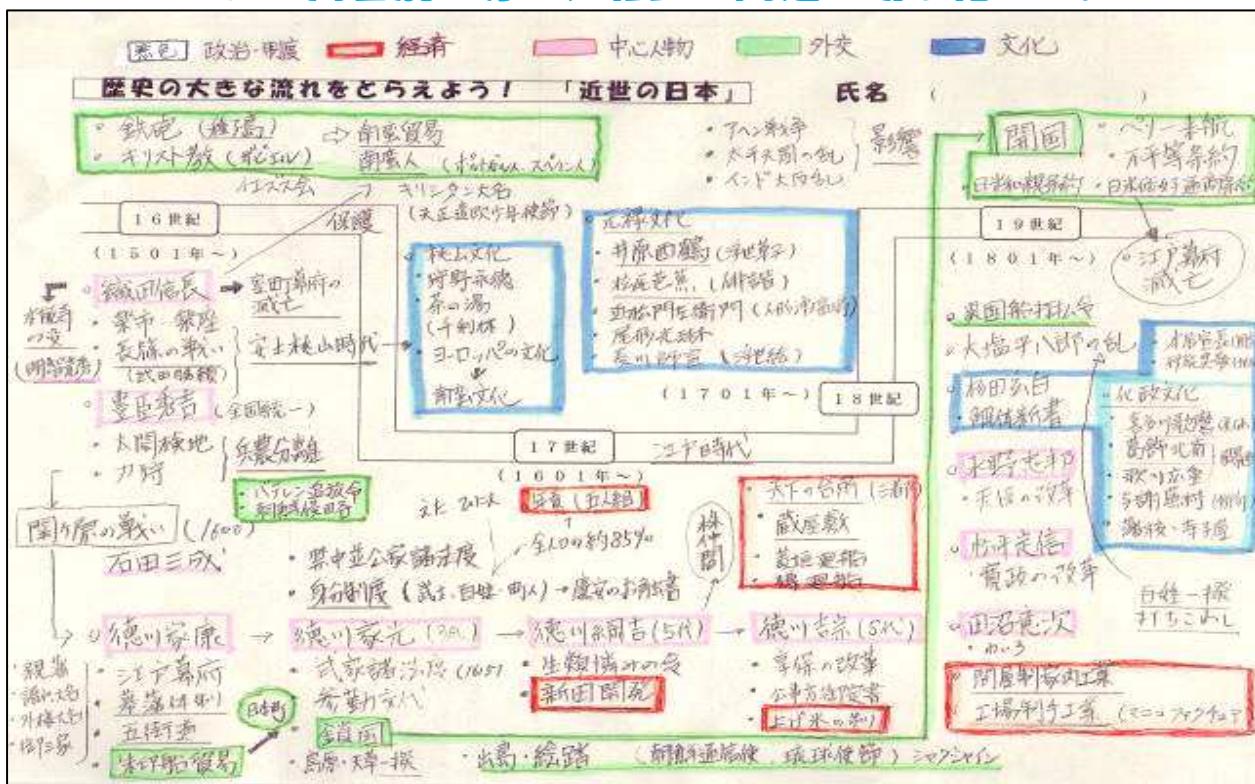
○ステップ4：全体の学び合いで、さらにシートに書き加える。



- 全体での発表は、時間の関係から数名とした。
- 教師は、黒板とフラッシュカードを使い、発表のあった歴史的事象を構造化した。(教師も黒板に図を作成した。)
- 新たに加えた内容は緑で下線をつけてある。

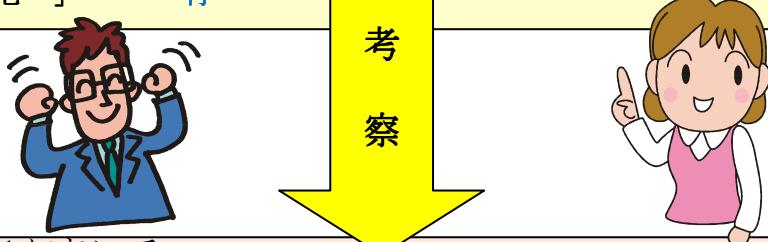
- グループの代表数名が、全体で発表し共有化を図る。その際、ステップ3と同じく歴史的事象についての説明をしながら発表する。
- 発表を聞きながら、それぞれ自分のシートに記入していなかった歴史的事象を工夫して書き加える。(矢印を活用し、関連についても明らかにする。)

○ステップ5：内容別に分け、相互の関連を明確化する。



- それぞれの歴史的事象を内容別に色分けすることで、時代を超えた内容別の歴史の流れを読み取る。

- | | |
|---------------------|-----------|
| ・「政治・制度」 → 無色（囲いなし） | ・「経済」 → 赤 |
| ・「中心人物」 → ピンク | ・「外交」 → 緑 |
| ・「文化」 → 青 | |



- ステップ1において

- ・ 今回の実践例は、生徒が「我が国の歴史の大きな流れ」を理解するというねらいのもと、上に示したような形式のワークシートを活用したが、学習内容（小学校の社会科、中学校の地理的分野や公民的分野の学習）においても十分活用できる手法だと思う。形を変えてイメージマップ的な活用（ウェビング）をすることも考えられる。

- ステップ2について

- ・ 「個→集団→個」のサイクルを重視し、はじめに「個」による活動を展開している点が重要である。学び合いをいかすためには、児童生徒一人一人に自分の考えを持たせることが大切であることを確認したい。

- ステップ3・4について

- ・ 集団による学び合いは、新たな発見や気づき、思考の深まりにつながる。また、「さらに調べたい」「自分も発表したい」といった学習意欲の高揚も期待できる。これらのことを考えると学び合いの場を適切に設定し、言語活動の充実を図ることが大切である。

- ステップ5について

- ・ 集団での学び合いを経て、「個」による学習のまとめの場を確保することは大切である。**学習のまとめは児童生徒一人一人が自分の考えて、自分の表現方法で行われることによって、思考力・判断力・表現力の育成につながることを確認したい。**

児童生徒一人一人に思考力・判断力・表現力を育むためには、思考の過程を大切にすることが求められます。このことを考えても今回の実践は、児童生徒一人一人の思考の過程を自分なりのまとめ方で表現するという意義のある実践であると思います。

今回は、中学校の実践例でしたが、小学校社会科においても児童一人一人の思考の過程を表現活動につなげながら、思考力・判断力・表現力を高めていくことが求められています。

それぞれの学校、学年、学級の実態にあった手立てを検討し、思考の過程を表現させるための手立てを工夫していただきたいと思います。